

第一次大極殿院東楼復原整備工事の写真記録

はじめに 平城宮跡歴史公園では、2022年より国土交通省近畿地方整備局が第一次大極殿院東楼復原整備工事をおこなっている。奈良文化財研究所では、施工を担当する竹中工務店から「平城宮跡歴史公園第一次大極殿院東楼復原整備工事に伴う写真撮影業務」を受託し、2022年11月より写真撮影をおこなっている。工事の進捗状況にあわせて2024年2月中旬までに計15回撮影した（表6）。撮影内容は、定点写真撮影を主とし、工事の進捗状況に応じて部分写真撮影をおこなった。さらに、立柱式等の行事における写真記録もおこなった。撮影は、平城地区遺構研究室と写真室が協力しておこなった。本稿では、写真撮影の成果について報告する。

定点写真撮影 定点写真は、工程ごとに（1）全体の俯瞰写真（図56～58）、（2）組物の部分写真（図60）の2種類を撮影している。（1）の全体の俯瞰写真については、足場の位置関係から、東から東楼棟通りを中心とした全景、東楼と回廊の芯を中心とした全景、北東から背側面の全景の3点を基本とした。ただし、初期は足場が建設途中であったことから、上記の位置からの撮影ができず、撮影位置にばらつきがある。側柱の建方完了（2023年9月7日）以降は足場が組み上がったため、3点の定点から継続的に写真撮影が可能となった。

（2）の組物の部分写真については、側柱上の組物の組み上げを5ヵ所の定点から撮影した（図55）。撮影においては、部材の組み方や上下関係も確認できるよう、撮影の角度などに留意し、東北隅の柱上の組物とその一つ西の側柱上の組物で、正面と正側面の細部写真（図55①～④、図60）と、北東隅から建物全体が入る写真（図55⑤）の撮影をおこなった。ただし、隅柱上の組物については、当初は建物隅の部材の納まりが見えるよう北東からの撮影を計画していたが、足場の手摺が妨げとなり撮影できなかったため、北西からの撮影とした。

部分写真撮影 部分写真撮影については、東楼の構造や架構等の特徴に着目して、部分的に撮影をおこなった。図59では、東楼の側柱は基本的には掘立柱であるものの、東妻の1本のみが礎石建ちの柱であることから、掘立柱と礎石建ちの柱を対比させる構図で写真を撮影し

た。図61は、東楼の上層の床板を張った直後の写真である。東楼の上層内部は、今後は電気配線などを設置し、竣工後も見学者が出入りできない予定である。しかし、『続日本紀』天平8年正月丁酉条の南楼の宴記事からは、奈良時代、東楼上層が宴の会場として使われた可能性もある。そこで、撮影時には、上層内部を室と捉えて空間全体を見通すことを意識した。このように、発掘調査の成果や、復原にあたり検討されていた内容も考慮しながら撮影対象を選び、足場の状況を確認しつつ、定点写真撮影に追加して部分写真を撮影した。

おわりに 東楼復原整備工事の定点写真撮影と部分写真撮影では、写真で記録すべき要素を意識しながら撮影を進めた。工事の進捗状況によっては当初計画した位置からの撮影ができなかった場合もあったが、その都度代替となる写真の撮影をおこない、問題意識を共有しながら撮影にあたった。今後も2025年度の東楼の竣工まで、引き続き写真撮影による記録を実施する予定である。

（高野 麗・西田紀子・山崎有生・中村一郎・飯田ゆりあ）

表6 撮影日と撮影内容

撮影日	撮影内容
2022年11月11日	東楼・回廊基壇礎石据付前
2023年1月20日	東楼側柱（掘立柱）据付穴・内部柱礎石据付
2023年2月16日	回廊礎石据付
2023年3月9日	立柱に伴う安全祈願祭・木材加工の様子・立柱
2023年3月30日	回廊礎石据付
2023年8月4日	回廊築地塀鉄骨建方および寄柱礎石据付
2023年9月7日	東楼側柱建方
2023年9月21日	東楼内部柱頭貫組立
2023年10月2日	東楼内部柱上組物組立
2023年10月17日	東楼側柱頭貫組立
2023年11月9日	東楼側柱上大斗組立
2023年11月14日	東楼側柱上大梁・妻梁組立
2023年12月11日	東楼側柱上肘木組立
2024年1月31日	東楼側柱上丸桁受斗組立・上層床板
2024年2月19日	東楼丸桁・天井桁組立

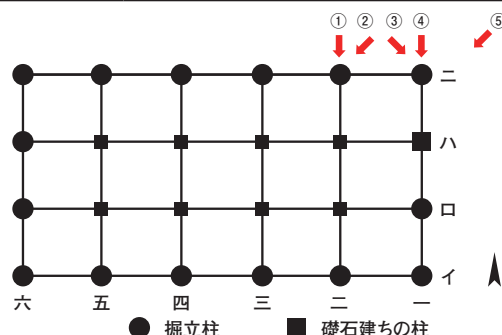


図55 組物の部分写真の撮影位置と撮影方向



図56 東楼側柱（掘立柱）据付穴・内部柱礎石据付
東楼棟通りを中心とした全景（2023年1月20日撮影・東から）



図57 東楼側柱建方 東楼棟通りを中心とした全景
（2023年9月7日撮影・東から）



図58 東楼側柱上丸桁受斗 東楼棟通りを中心とした全景
（2024年1月31日撮影・東から）

謝辞

本業務をおこなうにあたり、株式会社竹中工務店をはじめ、国土交通省近畿地方整備局（国営飛鳥歴史公園事務所・京都管轄事務所・管轄部計画課・管轄部整備課）、平城宮跡管理センター、公益財団法人文化財建造物保存技術協会に多大なる協力を得た。ここに記して謝辞を表したい。



図59 東楼側柱の掘立柱（ニー）と礎石建ちの柱（ハー）
（2023年9月7日撮影・南西から）



図60 東楼側柱上の組物（ニー）（2024年1月31日撮影・北東から）

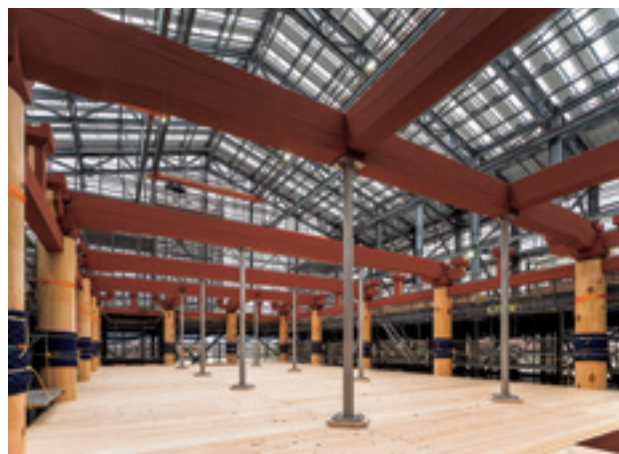


図61 東楼上層内部（2024年1月31日撮影・北西から）